

第3次計画及びアンケート結果を踏まえた課題

(1) 家庭における読書活動の推進

保護者や身近な大人の助けがなければ、乳幼児期の子どもは本に親しむ機会が得られません。一方、小学生以上の子どもたちは、自主的に本を読むことができます。発達段階に合わせた読書活動の推進を行う必要があります。

乳幼児の保護者に対するアンケート結果では「子どもたちが本を読むようになるためには、何が必要か」との問いに対して、「家庭での読書習慣」が8割以上の結果となりました。乳幼児期の保護者に対して、ブックスタート事業を初めとした様々な働きかけを行い、家庭での読書環境の醸成を図ることが必要です。

(2) 「読書離れ」が加速する中学生への支援の強化

今回のアンケート調査によると、どの年代においても不読率が上昇してしまいましたが、中学生では「読書離れ」が顕著になっています。スマートフォンやタブレット、ゲーム等のデジタルメディアに対する興味の移り変わり。勉強、クラブ活動等の義務などで時間が取られたことで読書時間の減少、読みたい本が見つからない等の理由がアンケートからも見て取れます。

中学生の読書離れを解決するために、個人や家庭、学校、地域社会全体で協力し、多角的にアプローチし、読書がただの義務ではなく、楽しみであり、自己成長の一環であることを伝える必要があります。

(3) 多様な子どもたちの読書機会の確保

障がいにより紙の本が読めない、本を入手することが難しい、言語の違いにより日本語の本が読めない等の理由により、読書ができない子どもたちの読書機会を確保するためには、個々のニーズや背景を理解し、それに応じたアプローチを取る必要があります。